

アルミ製緩み止めワッシャー

東京メタル 超々ジュラルミンを素材に

(株)東京メタル(神奈川県川崎市、竹田弘二社長)では、6月からアルミの一種である超々ジュラルミン(A7075)製緩み止めワッシャー(座金)の製造・在庫体制を確立。潤滑油の選定や焼鈍工程の追加により品質・生産性を向上させ、また9月までの間にアルマイト処理も可能となり、今後は軽量である点

を求める輸送機やドローン等向けで、最終ユーザーへの拡販を目指している。

アルミの比重は2・7で、鉄やステンレスの7・9に対し約3分の1であり、同社のアルミ製ワッシャーは、現在M6・M8・M10・M12の4種で、在庫は各種約1000キタ、材料も各種約1000キタを確保。寸法・規格の違いの特注にも対応している。

同社においてアルミ製ワッシャーは、昭和末期から主に輸向け製品用にインチ規格で製造していたが、円高により平成初期に製造中止となっていた。しかし昨年あるユーザーから、洋上(湖)の太陽光発電施設架台用に製造可能か問い合わせがあり、メートル規格で



緩み止めアルミ(超々ジュラルミン)製ワッシャーはアルマイト処理も可能に

再度製造及びその為の開発を開始。鉄製並みのばね性・へたりの性を目指し素材は50000・60000・70000番台から選定し、アルミは柔らかく

は、基準を満たす還元性が確認されている。またアルミの耐食性向上の一環として、アルマイト処理への対応も可能となっている。

IS B 1251に準拠した圧縮試験で

傷つき易い

為に金型・

圧力の調整

が難航した

が、約1年

をかけて今

年春に完

成。同製品

におけるJ

IS B

1251に

準拠した圧

縮試験で